

目指すべき電力自由化のあり方

国際基督教大学 八田達夫

- I 自由化の必然性
 - A. 規模の経済の低下
 - B. ITによる分散発電の可能化

目的

- A. 価格低下
 - 1. 総括原価主義からの脱皮
 - 2. ピーク時課金による過大設備の不要化
 - 3. 効率的立地促進
- B. 安定供給促進
 - 1. スポット市場による送電線の需要抑制
 - 2. 混雑料金による送電線の需要抑制
 - 3. リアルタイム市場による需要抑制

自由化の成功例

- A. 発電料金
- B. 送電料金
- C. 混雑料金
- D. リスクヘッジの諸手段
 - 1. 物理的相対取引
 - 2. 金融的相対取引
 - 3. 物理的先渡し市場
 - 4. 金融的先渡し市場

日本の自由化の評価

- A. リアルタイム市場の欠如
- B. 地点送電料金の欠如
- C. スポットマーケットの問題点
 - 1. 混雑料金の不徹底
 - 2. 物理的先渡し市場の危険性
 - 3. 混雑時出し渋りによる価格操作の可能性
 - 4. ひも付きスポット市場の問題点
- D. アンバンドリングの重要性